



矢部地区総がかりで支えられている幸せな学校

校長 山口 浩史

人と自然が調和する矢部村に、矢部小学校と矢部中学校が統合し、福岡県で3番目、八女市で2番目の義務教育学校として本年度4月6日(月)に開校式を迎え、八女市立矢部清流学園が誕生しました。約3年の準備期間の中で、PTAや矢部村住民のみなさんが幾度となく研修会や地区別説明会を開き、矢部村に学校を残すという願いを結集し、実現させた義務教育学校です。そのため、保護者や矢部村住民が新しい学校やそこで学ぶ子どもたちの成長に期待する強い願いを受けて「ふるさと矢部を愛し、未来を拓く学力と健康な体を持ち、共に伸びる児童生徒の育成～学校地域家庭をつなぐ『総がかりの教育』の推進～」という学校教育目標が創り上げられました。

本年度の全校児童生徒数は1年生から9年生まで合計47名と少ないものの矢部清流学園では、児童生徒数が少ないことを強みに、学力向上に取り組んでいます。少人数での授業なので一人一人の子どもが主体的に学習しています。一人一人の発言機会がとて多く、様々な意見交流ができる対話的な授業が進められています。主体的で対話的な深い学びの授業が全ての教科で毎日行われているため、必然的に子どもたちの学力は向上していきます。

また、今年度から新たに1年生から9年生までの英会話教室を始めました。英語が堪能な地域人材を活用して、英語科の教科授業以外で英語に触れる機会を多く準備し、日常的に英語で会話できる子どもたちを目指しています。外国語指導助手が週3～4日来校し、ネイティブな英語にふれられる機会も強みです。

また、後期課程(7年生～9年生)の子どもたちは、教科型教室で学習します。理科室や音楽室だけでなく国語も数学も社会も、全ての教科で移動教室を行います。全ての教室に電子黒板が準備され、ICT環境が充実しています。

しかし、学力だけを向上させているのではありません。昼休みには、グラウンドや木龍(体育館)で1年生から9年生まで学年や男女関係なく元気に遊びを楽しむ姿や清流会(児童生徒会)の役員やリーダーの真剣な話し合いの姿が見られます。このように、子どもたちによる自治的な活動も推進しています。

矢部村には、地域の伝統芸能として福岡県指定民族無形文化財の八女津媛神社の浮立があります。本校では、伝統芸能存続のために地域の保存会と共に浮立の伝承・保存の活動を行い、毎年矢部まつりで披露しています。このほかにも公卿唄の伝承活動や「柚のふるさと文化館」の清掃活動など地域と共にある活動を大切にしています。本校の全ての子どもたちが、地域の皆様方に宝物として大切にされており、矢部地区総がかりで支えていただいている幸せな学校です。